

東京国公だより

東京国家公務員・独立行政法人労働組合共闘会議 2018/4/9 17-25号

【電話】03-3501-6973

【FAX】03-3500-4391

【Eメール】

uematsu@tk-kokko.org

URL: <http://tk-kokko.org/>

4月16日（月）

国公船舶総行動迫る 多数ご参加を！

海事職の国公労働者は、独立行政法人に移行した職場を含めても少人数ながら、海洋気象観測、漁業資源調査や取締り、航路浚渫、海面を浮遊する流木・ゴミや海洋流出油の回収、海洋研究・調査、航海訓練など、地球環境の維持保全をはじめ国民生活にとってきわめて重要な行政分野を支えています。とりわけ東日本大震災、熊本地震、自然災害への対応など、昼夜を問わない海事労働者の活躍により、あらためて国直营船舶の重要性が明らかとなっています。

海事職の国公労働者は、このような重要な行政分野を支えるために、社会や家庭を離れて長期航海の業務を強いられる上、とりわけ厳しい自然環境のなかでの過酷な海上労働を遂行しています。国公船舶連絡会は、海事職職員の労働条件の改善をはかるため、4月16日に早朝宣伝、人事院交渉、昼休み人事院前行動、学習交流会などの「船舶総行動」を実施します。

- 1、早朝宣伝行動 8:45～9:30 場 所：各省庁門前か周辺、人事院前
- 2、人事院交渉 11:00～（打合せ10:30～ 人事院1階ロビー）
- 3、人事院前行動 12:20～12:50 場 所：人事院前
- 4、学習交流集会 14:00～16:00 場 所 国公労連

5階会議室 内 容：「国公船舶連絡会のとりくみ」「誰もが安心して働ける高齢期雇用をめざして」

家族と半年も離れ、危険な荒海で国民の安全安心を守る船舶職員の処遇の改善



船舶職場の紹介（水産庁・漁業調査・漁業取締船・練習船）

水産庁所属船舶である官船（7隻）の漁業取締船を我が国周辺水域等で、昼夜を問わず監視・取締業務を行っています。外国漁船等への立入検査や違法設置漁具の回収を実施しています。漁業取締船は、瀬戸内海で行動する50t型の高速船から2000t型の大型船まであり、それぞれの船の特徴を生かして取締活動を行っています。

また、全ての海域において、水産生物の的確な資源調査、有用生物の発掘及び資源動向に影響を与える海洋環境調査等の基礎的研究を行う大型漁業調査船（開洋丸）及び全国各地に水産研究所を有する水産研究・教育機構では、海洋の現状を把握する「モニタリング」、新漁場や漁獲技術の開発、新技術や機器の開発・高度化などを行っています。所属：漁業調査船（9隻）練習船（2隻）

海事職の職員は、それぞれの船舶を人事交流で異動しながら勤務しています。

海上労働に見合った労働環境をめざせ！

海上勤務の実態は、一度出港すれば長期間の航海を行います。家族からも一般の社会からは遮断された海の上での労働です。情報化社会の中で限られた情報の中で限られた船内での漁業取締や漁業調査の作業を行います。3交代制の勤務・ワッチの中で、例えば0-4ワッチでは、夜中の0時からAM4時まで、そして、昼の12時～16時までの勤務、8時間を勤務時間とします。

それ以外の休憩時間でさせ、船内の生活なので陸上勤務のように友達と遊びに行ったり、家族との団らんがあるわけではありません。

狭い船内での人間関係を維持しながら、安全な航行と業務の遂行に努めています。もちろん取締の現場では、ひとたび被疑船との操作対応となれば総員体制となり、業務に打ち込みます。日本の漁業資源を守るという使命に乗組員は奮闘しているのです。

こうした現場最前線で奮闘する海事職職員の労働実態に見合った処遇となるよう、船舶の仲間とともにその改善を求めて声を上げていきたいと思えます。

こうした海上労働者の実態を、多くのおみなさんのご理解とご支援をお願いします。

写真：昨年、海の日に公開された照洋丸 ↓ 搭載艇 ⇒



写真は、晴海停泊中の漁業調査船：開洋丸

